

Event & Information

吉無田高原では年間多くの催しが開かれています。皆さんもぜひ、足を運んでください。



野焼き (3月)



草スキー大会 (5月)



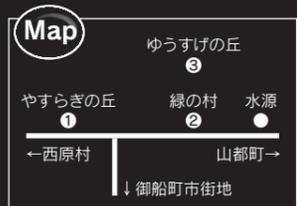
サッカー大会 (7月、12月)



ふれあい夏祭り (8月)



熊本名水百選「吉無田水源」



- 1** やすらぎの丘
▶ 入園 無料
▶ 駐車場 8台
- 2** 緑の村 **3** ゆうすげの丘
▶ 営業時間 9時～17時
▶ 定休日 毎週月曜・年末年始
▶ 入村料 大人 200円
小中学生 100円
▶ 内容 草スキー、マウンテンバイク、キャンプ場の利用
▶ 駐車場 大型車2台
一般車180台
▶ 問い合わせ
緑の村 ☎285-2210
ゆうすげの丘は役場経済振興課
商工観光係まで ☎282-1607



「やすらぎの丘」の大ファン
東 ミヨシさん(田代・74歳)

孫の美結を連れて、月に数回は足を運びます。時季折々の花はきれいで、空気もおいしくて、ほんにありがたい場所。心の栄養ですね。新宅さんは暇を見つけては広場の手入れもされていますよ。



「ゆうすげの丘」で音楽鑑賞
竹崎健太郎さん(上野・30歳)

山頂から見た夕日と夜景に感動しました。せっかく皆さんが造った舞台です。利用することが恩返しだと思います。子どもからお年寄りまで知って、利用すれば、もったいない風が吹きますよ。

吉無田高原には、雄大な自然に幸せを感じてほしいと広場を開放する人がいた。山頂から広がる絶景を一望してもらうために舞台を造った人がいた。舞台で音楽イベントを開いた人がいた。

吉無田の大地には、人の心を包み込んで、行動へと変える力が宿っている。

地域住民や町は、吉無田の魅力を発信するために、年間さまざまな催しを開いている。多くの人に吉無田の価値を知ってもらうために。観光資源でもある吉無田は町民の誇れる財産でもあるのだ。

本町には現在、約1万8千人が暮らす。多くの町民に利用されてこそ、吉無田の魅力と可能性は無限に広がる。

吉無田の大地に今、多くの人の思いを風に乗せ、新たな風を吹かせていきたい。未来へと吹く風を――

とっても夕日きれいだね
きつとまた見にこようね



思いは今風に乗って (終)

Photo / 「ゆうすげの丘」からの夕日



挑戦

STUDIO 1592

高原に恋した若きサウンド

熊本市内や有明海の絶景が広がる「ゆうすげの丘」。大人たちが情熱で造りあげた天空のステージ。若者たちが今、ステージに立ち音楽の風を吹きこんだ。



1_夕焼け雲を横にしながレゲエやヒップホップといった音楽を披露する出演者/2_陽が沈みはじめた特設会場では徐々にボルテージが上がる/3_「ゆうすげの丘」から一望できる熊本市内の夜景/4_音楽イベントを主催したSTUDIO1592の橋本潤二さん

吉無田高原「緑の村」の山頂650mにある天空の舞台「ゆうすげの丘」。完成から2年目となる今夏、若き力が吉無田を舞台に集結した。

9月10日、「BANRRANG」と銘打った音楽イベントが「ゆうすげの丘」で幕を開けた。主催はSTUDIO1592。県内の音楽アーティストを中心に、福岡や東京から37組が出演。レゲエやヒップホップの音楽が吉無田の頂上に響き渡り、訪れた若者を中心に約200人が熱狂して、熱気は翌朝まで続いた。

「ゆうすげの丘を若い力で何かできるという気持ちが始まりました」と開催動機を話すのは、主催者の橋本潤二さん(熊本市・28歳)。

吉無田高原の茶畑を仕事場とし、吉無田の良さを知る橋本さん。何気に御船町の友人・竹崎健太郎さん(上野)に音楽イベントの相談をしてみた。「誰か一人でもイベントをすれば、ほかの人も吉無田をもっと利用するかもしれない」と竹崎さんは背中を押した。すぐに町商工会や町へと相談した。すぐに快諾された。

イベント企画、出演者の調整、会場設営の準備、宣伝を同時に進めて9カ月後、音楽イベントを見事やってのけたのだった。

「吉無田の景色は最高でした。昼間は有明海を見て、沈む夕日に、熊本市内の夜景と三回楽しめました。吉無田を知ってもらえたことが第一歩です」と確かな手ごたえを話す。

一方で、課題や反省点もあった。御船町内への宣伝、予想を下回る来場者数、会場案内が指摘されたという。

「お叱りも受けました。小さな部分ほど丁寧しておくことが大事だと勉強になりました」と反省を口にする。

しかし徹底したこともある。会場のごみ拾いや清掃といった公共のルール。次回につながる大事な仕事だからだ。

「来年もぜひ、イベントを開催させてもらいたいと思います。もっと吉無田を使って楽しめるようなイベントをしたいですね。そこから人と人がつながるようなイベントに」と先を力強く見据える。

若者の目に映る吉無田は、音楽と景色を融合することで無限の可能性が広がる。